昭和八十八年三月二十四日(日曜日)　西成なるへそ新聞　第01号(1)
©Ko Yamada & Breaker Project

街は新聞だ

なるへそ新聞本日創刊

思い出はニュースだ

西成なるへそ新聞社(大阪市西成区)は24日同紙の創刊を発表した。西成区で芸術活動を展開するブレーカー・プロジェクトとの共同企画によって生まれたこの独創的な新聞は、地域に住む人々の記憶を頼りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に扱われ、街の変化同様新しい記事を入れる際には古い記事を切り取って取り壊し、少しずつ時間をかけて記事が差し変わって行くというユニークな形式だ。人に話を聴き、手作りで遺していく「手書き」の新聞。個人的な思い出話を、それが何年前のものでも新聞記事として現在の事のように扱うことで新旧の家々やそこに住む人々の記憶が入れ子の様に混在するリアルな都市の姿をこの新聞は体現すると、同紙編集長山田亘氏は語る。同社は一般参加の記者を公募中。参加する記者達の取材の過程そのものが人から人への歴史の橋渡しともなっていく。

なるへそ記者

「西成なるへそ新聞」は新規の記者を広く募集している。忘れる事の出来ない大きな戦争体験ですら徐々に個人のディティールを失って単なる「歴史の一ページ」となって行く現在、この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまう前に、出来るだけ多くの方々から「暮らしの体験談」を聞き出していただきたいと同社広報の村田仁氏は語る。時空間を育く街の移り変わりの姿を一緒に作っていく「なるへそ記者」には報道腕章とメモ等が支給される。年間を通しての参加から、数回や一回限りでの参加も可能だ。

発行:西成なるへそ新聞社
ブレーカープロジェクト実行委員会
発行人:山田亘
編集:ブレーカープロジェクト実行委員会 外科医仁
山田亘
図案:村田仁

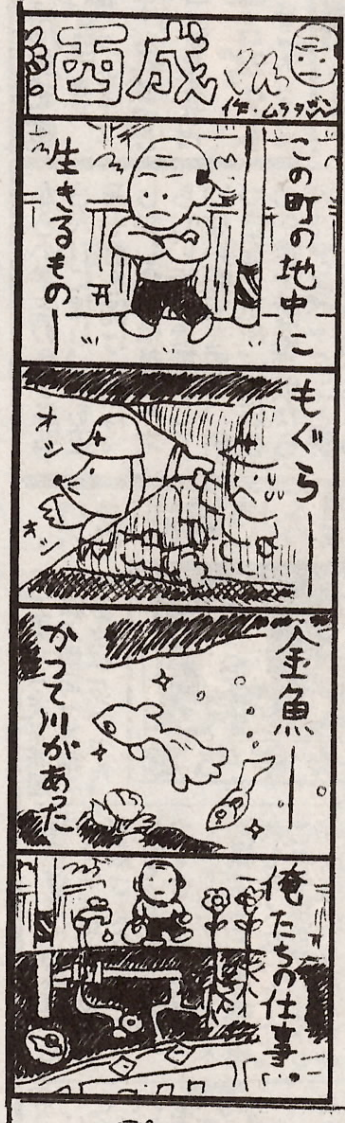
ウェブ上でも注目

ブレーカープロジェクトのフェイスブック上でも「なるへそ新聞の注目度が上がっている。キックオフイベント(3/24)のポストに対し現在4玉百を越えるアクセスがあり注目度がうかがわれる。

砂糖の山を登頂す

築港

二十二日夜未明、米国より築港に着いた貨物船内で、高木進さん(23)しが、砂糖の山の登頂に成功した。高木さんは船からの積み上げ業務に就いており、この日は船庭部の倉庫に精製前の砂糖が根包されずに粒のまま、山になって運ばれて来ていた。スコップで山を切り崩していくのだが、長靴のまま砂糖の上に乗るので、白い砂糖は黒く汚れる。「あれ見たら、もう砂糖食べられへんよ」と高木さん。甘くはない登山のようである。



五時からメタボ

築港の船つき場で荷下ろしの仕事をする関係者の間では、港湾労働者の「夕方肥満現象」が話題になっている。同職場で勤務する男性は、「細身の同僚が、仕事に来た時と帰る時で着ぶくれの具合いが違っていた。」と述べる。

最近、船つき場で船搬された荷物の盗難が相次いでおり、肥満化した男性との関係が疑われている。

また、正月太りの男性労働者たちはあらぬ疑いをかけられ、困惑している。

NARUHESOを世界語に

十四日フランスで開催された国際デザインシンポジウムにおいて、「なるへそ新聞プロジェクト」が発表され、ユネスコ・クリエイティブシティネットワーク参加都市代表者たちから大きな反響を得た。「NARUHESOでそのまま押した、世界共ズボンで一世を風靡」「関西風意服」を確立したという。アーケードの完成という父の大きな仕事を祝うパレードに誇らしい思いで望んだ康夫さんだが、魅力的なバトントワラーの娘達に興奮した酔漢たちがまとわりつき始め、青年部として警備を担当していた康夫さんは終始酔っぱらいの排除に明け暮れ「感動しようにもそれどころでは無かった」と語る。

山田亘さん

バトン娘守れ!

青年部が大奮走

待望のアーケードが完成した飛田本通商店街では消防音楽隊によるパレードが行われた。商店街理事長村井健次郎氏の長男村井康夫さん(19)は衣料品商店の三代目。祖父の亀吉氏は自らのデザインの

楽創安堵

高松生活

楽創は人生四季のうちの最後の春即ち言う。還暦以後停年退職をする。息子業の人は後継者を決めて家業を譲る時期と言う様に、この頃から新しく第二の人生をつくって行くことが大切と言われる。この様にして第四の生活の心配りを重ねる事を生活に潤いを持つと言うことは若さに対しての理想的人生観と言える。現代社会生活は言って仕方ない高令化時代とは言っても高令化時代とは名ばかりの社会の在り方にあるのは大きな問題を含んでいる。

新聞の福祉社会問題が探見されてくる点を見て仕方ないと思う。

前の様な生活に理想を求めて高令社会の人生を今楽しむ日々をするべく何よりも大切なことであると考えます。

松葉史太郎

テントに期待

西成区の北門通りで、向かいあう店や家に張ったワイヤーの本数が、150本以上に達することが、このほど分かった。

ワイヤーは日除けテントを張るために用いる。関係者は、真夏の暑い日の買い物客増を狙う。白の天幕が百メートルにわたり連なる予定で、商店主らは心待ちにしている。

北門通りでタバコ店を営む中本雅子さんは「手動でテントを広げると、商品の陽焼けを防げる」と話す。通りは半分川だったが、戦後は夜店も出て、深夜までそぞろ歩きでにぎわう。アーケードのような天幕に、一層のにぎわいへの期待を込める。

アーベンカジュアル
丸亀
太子1-11-2

広告主求ム

kioku 手芸館
たんす
お家のタンスに眠っている編み物を譲って下さい。
山王1-11-5(元・鈴木タンス店)

福寿し うどん
06-(6647)-5929
きつね・たぬき・月見
とじ・わかめ・肉
にしん・海老・こぶ
海老天・ざる・うまい
天ぜる・名物がやく

大阪市現代芸術創造事業
ex・pots 2011-2013
Breaker Project
山王・飛田・太子・新世界
地域密着型アートプロジェクト
http://breakerproject.net